県政報告
ひでしの
「実績で勝負」66

マイME－BYOカルテ「サルビアねっと」と情報連携を実現

公明党　鈴木ひでし

2月末からサルビアと医療情報つなぐ

令和3年6月県議会定例会において提案した、「マイME-BYOカルテ」の活用に向けた黒岩祐治知事への提言により、実現した実績をご報告いたします。

マイME-BYOカルテとは

マイME-BYOカルテとは、神奈川県が運営するスマートフォンで利用できるアプリケーションで、生涯にわたる健康・医療情報の一元的な管理を通じて、個人の未病改善の実践を支援することを目指しています。

現在、約130万人が登録しており、健診結果やお薬情報等の記録機能に加え、一昨年3月に実装された未病指標により、未病状態の見える化もできるようになっています。

今後、より一層、県民の未病改善を推進するためには、マイME-BYOカルテの活用を さらに促進し、多くの県民がメリットを感じられるような事業展開が不可欠であるとかねてから感じていました。

カルテの活用促進

県では、マイME-BYOカルテで健康・医療情報を一元的に管理するための取組として、昨年4月から、県立こども医療センターと医療情報を連携し、マイME-BYOカルテで閲覧することが可能となる運用を始めています。

私は、このような医療機関との情報連携を県下にもっと広げていくことが、マイME-BYOカルテの活用促進につながると思いました。

また、県民の皆様が、マイME-BYOカルテの利便性やメリットを日々の生活の中で実感されることで、率先して使用するといった県民の行動変容が促され、自ら未病改善に取り組んでいくことにつながっていくのではないかとも考えていました。

そこで、令和3年6月の県議会定例会で、黒岩知事に対し、今後、どのようにこの事業に取り組んでいく考えなのかを質問しました。

黒岩知事は、県立こども医療センターとの医療情報の連携の仕組みを、県内の地域医療介護連携ネットワークとの連携に拡大していくことを明言しました。

この答弁を受けて早速県は、鶴見区、神奈川区の病院や診療所、薬局等に展開する地域医療介護連携ネットワークである「サルビアねっと」の医療情報をマイME-BYOカルテと連携する取組をはじめ、この2月末から開始しました。

スマホで閲覧可能に

これにより、「サルビアねっと」に参加する方が、マイME-BYOカルテで登録手続きを行うと、血液・検体検査や処方箋の情報が、自動でマイME-BYOカルテに記録され、いつでもどこでもご自身のスマートフォンで閲覧できるようになります。

さらに「サルビアねっと」に参加していない医療機関等を受診する場合でも、ご自身の医療情報を正確に伝えることができるようになりました。

利便性さらに向上へ

県では、「サルビアねっと」に参加する医療機関等と連携して、マイME-BYOカルテの登録を広く呼びかけるとともに、今後もより一層マイME-BYOカルテの利便性を高めていくとのことです。

昨今の必要性が叫ばれている「DX時代」をリードするような本県の取組が、私の地元、鶴見区で実現したことは、提言した選出議員として関係者に感謝するとともに、尚一層の責任を感じております。今後もしっかり県の対応を見守ってまいります。

サルビアねっとの詳細は上記二次元コードから

モットーは「まかせて安心！いのちと生活を守る！鈴木ひでし」。

第109代神奈川県議会副議長、県監査委員、公明党県議団団長などを歴任。現在、建設・企業常任委員会、共生社会推進特別委員会

HP http://www.hideshi-suzuki.com/

「サルビアねっと」とマイME-BYOカルテとの医療情報連携イメージ

「マイME-BYOカルテ」から閲覧できる「サルビアねっと」取扱い医療情報

【検査 15 項目】AST（GOT）、ALT（GPT）、γ-GT（γ-GTP）、中性脂肪、HDLコレステロール、LDL コレステロール、空腹時血糖、ヘモグロビン A1c、随時血糖、尿糖、尿蛋白、ヘマトクリット値、血色素量、赤血球数、血清クレアチニン

【処方箋】薬剤名、用法、用量、処方された日数